

雨の強さ・降り方と災害の危険性等

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上	記録的短時間大雨情報 110mm~(熊本県)
1時間雨量と予報用語						
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。	
人の影響と屋外の様子	●地面からのはね返りで足もとがぬれる。 ●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●傘をさしていてもぬれる。 ●道路が川のようになる。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。	●傘はまったく役に立たなくなる。 ●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。		
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。 ●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。	



※今いる場所で雨が降っていないなくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりした場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降る恐れがあるため、気象情報をよく確認してください。

●長時間の降雨に注意しましょう

長時間の雨を降らせるものとして、線状降水帯があります。線状降水帯とは、激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し、線状に並ぶものをいいます。数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞するため、激しい雨が長時間降り続けます。

大雨時の情報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」が発表され、最大限の警戒を呼び掛けます。

※「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

大雨・洪水注意報

災害が発生するおそれがある

大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨・洪水警報

重大な災害が発生するおそれがある

大雨 大雨により、**重大な浸水災害や重大な土砂災害など**が発生するおそれがあると予想したときに発表。

洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による**重大な災害**が発生するおそれがあると予想したときに発表。

大雨特別警報

「警報」よりもはるかに高い危険度

大雨 台風や集中豪雨により**数十年に一度の降雨量**となる大雨が予想される、もしくは、**数十年に一度の強度**の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。

「**洪水**」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

●記録的短時間大雨情報

数年に一度しかないような、短時間の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、周囲の状況や雨の降り方に注意し、少しでも危険を感じた時はすぐに安全な場所へ避難しましょう。